

登録コード	L1340500	開講年度	2026	
担当教員	菊池 聡	副担当		
授業科目	文化情報論発展演習III			
英文授業名	Cultural Informatics: Advanced Seminar III			
授業タイトル	Advanced seminar on Culture and Information 3			
単位数	2	対象学生		講義期間 後期 曜日・時限 水曜・1時限
講義室	人文文化情報論実習室	遠隔授業科目		読替科目 読替科目は履修案内を確認すること
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔	【授業の達成目標】
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ			
	【2022年度以前カリ対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー		⇔	説得と態度変容のために情報の適切な編集技術を使いこなすことができるようになる。
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ			
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】		⇔	効果的な情報表現のための情報構成力を身につけることができる。
	【2023年度以降カリ対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】		⇔	情報リテラシーを高め、効果的な情報表現力を発揮することができるようになる。
授業で学べる「テーマ」	その他			
全学横断特別教育プログラム				
授業の概要	ビジュアルな情報表現に関する課題や企画を繰り返し遂行し、各自がベクター形式・ラスター形式の画像情報処理の基本を習得するとともに、有効で説得力のある情報表現の態度と知識を習得する。その成果はweb発信や学部イベントの告知ポスターなどにおいて積極的に発信するOJT型の実習である。 課題制作にあたっては、グループを組んで、互いに批評・ディスカッションを行う。 本授業は、2年次に「文化情報論基礎実習Ⅰ」の単位を取得した学生が、3年次に発展的な内容の課題に取り組む実習形式の授業である。			
授業計画	実習の進行により、内容や順序は多少変動する可能性がある。 第1週 情報表現のためのガイダンス 第2週 ベクター形式基礎 第3週 ベクター形式応用 第4週 ベクター形式総合 第5週 ベクター・ラスター統合 第6週 情報表現レイアウト 第7週 制作課題1 合評 第8週 画像情報処理応用 第9週 制作課題2 合評 第10週 広告表現 企画とディスカッション 第11週 広告表現課題1 試作 第12週 広告表現課題2 合評 第13週 制作に有用なツールの応用的な利用 第14週 制作課題3 合評 第15週 グラフィカルな情報活用力を総括し、さらなる向上の手がかりを得る 授業アンケート ただし、外部からの制作依頼のスケジュールに応じて、授業計画も柔軟に変更する。			
成績評価の方法	グループでの課題制作に参加し、習得した内容に関する課題の提出を複数回行い、それぞれの課題達成度を評価する。これらの評価をすべて加算したもので成績評価（100%）とする。形成的評価によって学習の支援を行うため、総合成績に占める個別の課題の割合は、実施回数と内容によって変わる。			
成績評価の基準	すべての課題において、主体的に情報環境を適切に使いこなし、演習で直接扱った範囲だけでなく、それらを十分に発展させた高度な情報活用能力を示すことができれば「卓越している」、課題のほとんどで演習でカバーしている範囲の情報活用能力を応用的に使いこなすことができれば「かなり上にある」、課題の多くの範囲で情報活用能力を実践的に使いこなすことができれば「やや上にある」、複数の課題の多くで演習で扱ったレベルをクリアする情報活用能力を示すことが出来れば「水準にある」と評価される。			
事前事後学習の内容	毎回、情報活用に関する課題を指示するので、それを次の実習までに遂行しておくことを求める。			
履修上の注意	「文化情報論基礎実習Ⅰ」の習得内容を前提として取り組む授業であるために、過去に文化情報論基礎実習Ⅰの単位を取得した学生のみ履修できる。			
質問、相談への対応	実習形式の授業であり、実習中に具体的な質問を受けつける時間は十分に設ける。また、電子メールでアポイントメントを取った上で直接の質問と相談に適宜対応する。 担当教員・菊池のアドレス skikuch@shinshu-u.ac.jpへ。			
教科書	使用しない			
参考書	広瀬正康 (2014). illustratorトレーニングブック ソーテック社 土屋徳子 (2018). GIMPのすべてが身に付く本 技術評論社			

参考書	羽石相(2017).Inkscapeスタートブック 秀和システム 高橋佑磨・片山なつ(2016). 伝わるデザインの基本 よい資料を作るためのレイアウトのルール 技術評論社
-----	---